

5. 同窓会の交流

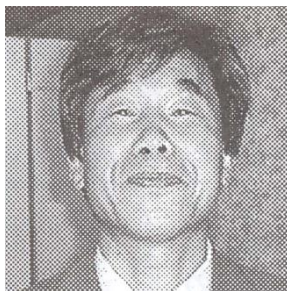
夏の全国高校野球、この国民的イベントだけは全都道府県の全試合結果が全国版に掲載される。毎朝、スポーツ欄を見て、地方大会1回戦、2回戦（おそらく1回戦は不戦勝であろうが）で下段（敗者）の方に〇〇高専があるのだが、それでも高専というだけで気になるし応援したくなる。今年は、香川県予選で高松高専が準々決勝まで勝ち進んでいた。「おそらく学校は盛り上がっているだろうな」、「来年の高専大会は高松が勝ちそうだな」とか思ってしまう。どこの高専でも良い、春の大会の「推薦枠」でいいから一度「甲子園」に行ってくれたらアルプススタンドを全国の高専出身者でうめつくし、「全国高専節？」でも歌えたらと夢をみる。

北九州高専は、40周年を迎え同窓生も約6000人、全国50数校の高専同窓生は全国に30万人以上いることになる。この30万の同じ釜の飯をくった人材のネットワークがあれば、どれだけ大きな力となり、高専のためになるだろうか。こんな壮大な夢をおった男達がいる。

ここで、紹介する「ヒューマンネットワーク高専」と「高専同窓会フォーラム in 九州」は、「高専つながり」を大事に育てたいという高専人が運営している組織であり、北九州高専同窓会も協力できる範囲であるが関わっている。

しかし、「同窓会は人生のオアシス」、たまに集って人生を潤す水(?)を飲めればいいとする北九州高専同窓会は、役員が真面目な話題がどうも苦手で、懇親の場だけ盛り上げているようである。

高専人の拠り所を目指して



ヒューマンネットワーク高専事務局長
宮下 和美

この度は、北九州高専創立40周年おめでとうございます。

ヒューマンネットワーク高専（HNK）として、栄えある北九州高専同窓会の記念誌に投稿の榮譽を与えて頂きましたことに感謝申し上げます。

私は長野高専の機械工学3期生ですが、当校も昨年40周年を迎えて記念行事を行い、同窓会員としてささやかな協力をしたところであります。

HNKの活動のお陰で、他校の同窓会の活動状況を少しずつ知らせていただける嬉しい立場にあります。今回も投稿を前にして頂いた貴校の同窓会の歩みを拝読致し、難しい環境をはね除けて素晴らしい活動をされている陰に、底支えをされて来られた苦労人の引き継ぎの歴史があることを教えていただきました。

全国の高専同窓会でそれぞれの先輩のドラマがあつて、それはおうかがいするたびに頭の下がる苦労の歴史であり、それがまた、草創を背負われたそれぞれの高専人のドラマに通じ、私たちはそれを共有できていると感じています。

HNKの始まりは、県内企業のOB懇親会が他校の高専生を交えていなかったことに端を発して、県外に出た友人が日常の付き合いで肩身の狭い思いをしないようにと、各校の垣根を除いた全国の高専人の集まりを計画したところからであります。

この願いは、長野の友人に声を掛けはじめて県境を出るまでに5年を要し、HNKとして全国活動に移り早9年を経過しております。北九州高専の皆さまとは、第1回定時総会に入沢仁様、入江司様に参加を戴いて以来お付き合いをお願いしております。この時の懇親会がフォーラム in 九州を促進した憶えがあり、少しは皆さまのお役に立てたのではないかと考えております。

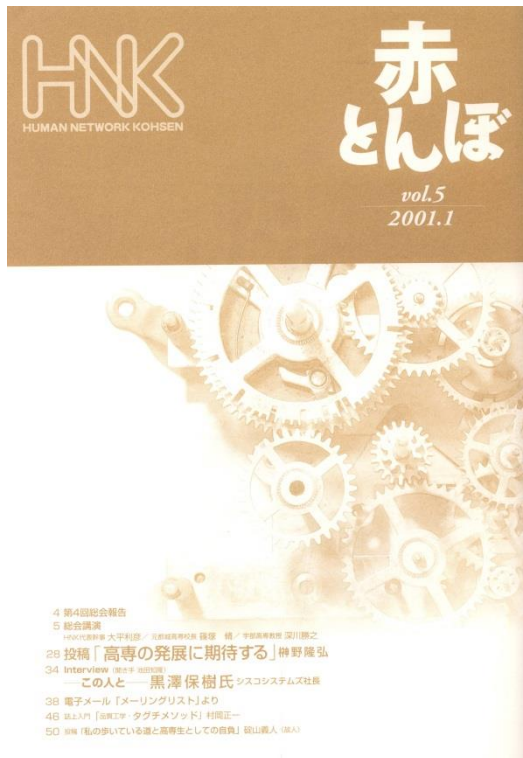
10年目を迎えるにあたり、ネットでの情報交換を簡便にして、各地の催しに誰でもが参加出来るような仕組みを目指しています。技術相談、研究開発、ビジネス、癒し空間と、エンジニアの拠り所となるような活動を目指しており、<http://www.hnk.or.jp>として秋には開局の予定であります。

HNKの集まりの特徴は、出身校が違うことから先輩後輩の区別が無く、互いに友人として尊重し合える大人の関係を構築できるところとっております。同じ学生時代、社会に出ても同じ苦労をした者同士は、分かり合えると時間と距離が一気に縮まるのを体感することが出来ますのは、高専人へのみに与えられた貴重な財産と感じております。これを機会にHNKにお寄り頂き高専人のお付き合いをお願い致します。

ありがとうございました。



ヒューマンネットワーク高専総会



ヒューマンネットワーク高専機関誌「赤とんぼ」

高専同窓会フォーラム in 九州

北九州高専と同様に九州の各高専では、独自に活発な同窓会活動が行なわれている。そのような中、「15歳から20歳までの多感な時期を同じ高専制度の中で過ごした人達が各出身校の枠を越え、集い、交流すれば新しい展開が生まれるのではないか」との主旨で、九州の高専同窓会の集いを開催してはどうだろうかという気運が高まってきた。

そこで、平成9月19日、有明高専が発起人となって、第1回の集いが大牟田ガーデンホテルに於いて開催された。そのときの参加校は、有明、大分、佐世保、八代、都城高専で、北九州は都合により参加できなかった。そこで、会の名称は「高専同窓会フォーラム in 九州」と決まり、

次年度以降は、ロボットコンテスト九州大会の前日を開催日とし、原則としてロボコン担当校が世話役を引き受けることで、継続して開催していくことが決まった。

フォーラムでは、各高専同窓会の活動状況が報告されるとともに、協議事項を設定しての情報交換、活発な意見交換がなされる。また、同窓会活動における悩み、問題点が紹介されるなど、同窓会活動を行なう上で大変に有意義な情報が収集できる。また、何より会議終了後の懇親会では、まさしく、「15歳から20歳までの多感な時期を同じ高専制度の中で過ごした人達が各出身校の枠を越え、集い、交流すれば新しい展開が生まれるのではないか」との主旨が最も反映され、初対面にも関わらず、「何年入学?」、「あっ先輩」とすぐに上下の序列で交流が深まるのも高専の集いらしい。

北九州高専は、第2回から参加したが、真面目な話が苦手な北九州のメンバーは、第2回は会議に遅刻しての参加、第3回は懇親会からの参加と他高専には迷惑をかけたが、その分懇親会の盛り上げには多に貢献した。

しかし、平成13年の第4回は北九州が担当となったため、高専の会議室でのフォーラムから万全の準備を整えて開催した。ただ、それだけに留まらず、各高専の同窓生がロボコンの応援に来るのなら、盛大に迎えようと北九州高専の平成13年度同窓会と一緒に企画し、「ロボコン前夜祭」として、他高専の校長、事務部長にもご案内を出しての盛大な懇親会を開催した。

フォーラムは、その後も平成14年有明高専、平成15年八代高専、平成16年都城高専がそれぞれ担当して有意義な集いとして毎年開催されている。ただし、北九州高専は、「会議には事務局だけ参加、役員は懇親会から参加」の伝統ができつつある。



会議風景（中央は議長の青木会長）



フォーラム参加者（北九州高専会議室）



九州各高専の同窓会長（右端が青木会長）